



未来への責任

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は世界の至る所で、人々の生命と暮らしを脅かしております。そして、長期にわたる影響に伴い、とりわけ弱い立場でもある子どもたちに大きな影響を与えております。

政府は、新型コロナウイルス感染症の流行が発生し、**多くの子ども・若者が不安を高め、孤独・孤立の問題が顕在化していることなど**、状況がさらに深刻さを増している中、総合的見地から「第三次子供・若者育成支援推進大綱」を策定されました。



この大綱にもある「**全ての子ども・若者が自らの居場所を得て、成長・活躍できる社会を目指し、子ども・若者の意見表明や社会参画を促進しつつ、社会総掛かりで子ども・若者の健全育成に取り組んでいく社会**」に向け、県の施策が促進されるよう引き続き取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症対策の強化（6月補正予算の概要）

- 徹底した感染拡大防止策**（60億1405万円）
滋賀県広域ワクチン接種センターを設置や4か所目の宿泊療養施設の開設、イベントベースサーベイランスの実施体制の整備 など
- 医療提供体制の充実・確保**（99億6128万円）
新たに病床を開設するために必要な設備等の整備、回復患者の受入環境の整備などを行う医療機関等への支援金 など
- 経済・雇用・生活支援対策**（58億174万円）
飲食店や観光業、地域交通等、コロナ禍の影響を強く受ける中小企業等への支援、離職者等の就業促進、生活困窮世帯への支援強化 など
- 学びの機会の確保・未来への投資**（1億5572万円）
学生の地域活動等に必要経費を支援、看護実習生等に対するPCR検査等に要する費用の助成やオンライン受講環境の整備 など

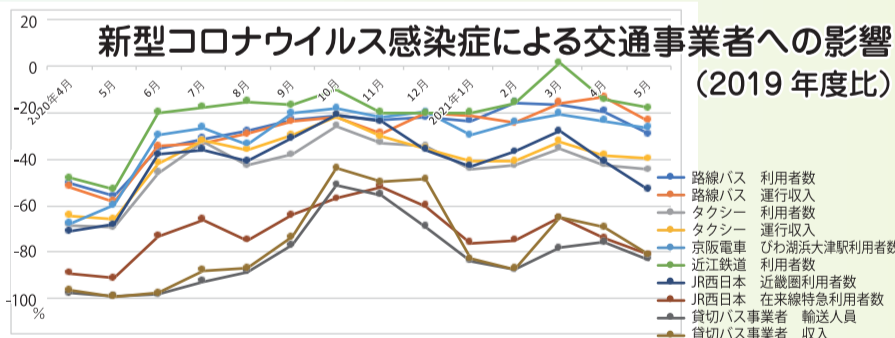


比良レストハウスに係る解体工事費及び運搬経費が補正予算で増額
滋賀アリーナの工事の進捗状況 調査（教育・文化スポーツ常任委員会）
「飲食店への営業時間の短縮要請等の更なる検証について」の要望書提出

滋賀の交通について

成田 緊急事態宣言の発令による大学のオンライン化や観光需要の停滞が続くなど、コロナ禍が長期化することにより、人の移動が慢性的に抑制され、公共交通事業者の経営状況はさらに悪化している。また人員不足による影響も加わり、路線の縮小等、公共交通の悪循環の歯止めが利かない状況にあるが、公共交通における、新型コロナウイルス感染症による影

響についてどのように感じているか
三日月知事 コロナ禍により、全国的に外出自粛の要請がなされたことなどから、利用者数が大幅に減少して、それに伴い公共交通事業者の経営は大変厳しいものになっていると捉えている。このような中で、各事業者におかれましては、可能な限り減便や路線廃止をすることなく、運行を継続頂いているところであるが、今後、事業の継続自体が困難になりかねない事業者も出てくるのではないかと危惧している。



成田 補正予算で提案されている新型コロナウイルス感染症対応交通事業者支援事業について

土木交通部長 地域鉄道、バス、タクシー等、地域の交通を担う事業者を対象とし、利用者は減少しているものの、減便等をしていないことにより増しとなっている運行経費に対し補助を行うこととしている。

成田 観光需要を回りながら、観光バスの利用促進につなげていかなければならないが、今後の対応策について

商工観光労働部長 安全安心な観光バスツアー補助事業の実施期間について、9月末までのものを、秋以降の観光需要喚起にもつなげるため、来年3月まで延長した。バス事業者などの観光事業者等が行う、コロナ後を見据えた前向きな取組や感染症対策を支援するための「観光施設等魅力向上・感染防止支援事業」を補正予算案として提案している。

成田 ワクチン接種が進んできている中、観光需要が高まっていくことを期待している。コロナ禍を経た新しい時代の観光を見据え、自然や景観など、滋賀らしい魅力を活用した観光需要の促進に向けた今後の取り組みについて

商工観光労働部長 コロナ禍により人々の価値観や生活様式が大きく変わり、本県の豊かな自然や歴史文化、ゆっくり、いいね暮らし方など、滋賀の魅力が再評価されているのではないかと、まずは県民の県内旅行を支援する、宿泊周遊キャンペーン「今こそ滋賀を旅しよう!」などの取組を進め、観光需要の喚起に努めながら、その後の新しい時代に選ばれる滋賀、長く滞在し、何度も来ていただける滋賀を実現するため、滋賀ならではのツールズを「シガリズム」として磨き上げ、観光需要の創出につなげてまいりたい。

ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「ケアが必要な家族の世話をしている18歳未満の子ども」のことであり、年齢や成長の度合いに見合わない、病気の家族の介護など、大人が担うような家族の世話や家事で、重い負担や責任を負っている子どもたちであり、本人の育ちや教育に影響があるといわれている。福祉、介護、医療、教育等といった様々な分野が連携し、ヤングケアラーを早期に発見した上で、支援を行うことが重要である。

成田 滋賀県においても、ヤングケアラーの実態を調査する必要があると考えるが

三日月知事 課題等の抽出にとどまらず、支援を必要としているヤングケアラーを特定し、具体的な支援につながるための何らかの調査をする必要があると考えている。

成田 市町や県教育委員会、市町教育委員会とも連携を図りながら、ヤングケアラーに対する支援・相談体制の強化を行っていく必要があると考えるが

三日月知事 高齢、障がい、疾病、生活困窮、ひとり親家庭など家庭の状況は様々であり、ヤングケアラーを把握し、適切な支援を行うには、県教育委員会をはじめ、市町や市町教育委員会との連携・協力は不可欠である。4月に創設された「重層的支援体制整備事業」を活用するなど、各市町で福祉、介護、医療、

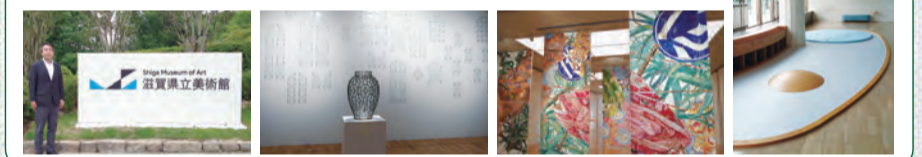
教育等の様々な分野が連携した包括的な体制が整備されるよう支援することで、その家族全体を支えていく。

成田 ヤングケアラーに寄り添った広報・啓発による社会的認知度及び社会全体で支援する機運の向上が必要ではないか

三日月知事 ヤングケアラーは、支援が必要であっても、家族内のことであることや、本人や家族が問題を認識していないなど、表面化しにくく、周囲が早期にその存在に気づき、置かれている状況を正しく認識することが重要。学ぶ機会を設けるなど、支援の輪を広げる啓発・取組に取り組んでまいりたい。また、社会全体で支援する機運を向上する取組を進めることにより、誰一人取り残さない社会を目指してまいりたい。

滋賀県立美術館リニューアルオープン

滋賀県立美術館が「わかる、かかわる」をコンセプトに、6月27日に再開館しました。とんがった近現代美術だけでなく、歴史を知れる絵巻やほっこりする絵画、わくわくするアール・ブリュットなど、多様な作品が発信されています。



成田 現在、交通税に関する議論が先行しているが、地域公共交通の位置づけを明確化する条例と両輪で議論を進めていくべきではないかと考える。滋賀県交通基本条例の検討や、交通ビジョンの改定など、今後の公共交通の方向性についてどのように考えているのか

三日月知事 公共交通は、誰もが自由に、かつ安全に移動し、交流するための重要な社会インフラであり、より良き自治を追求し、本当の意味での健康しがを実現するための基盤であると認識している。現在、JR線を軸とした広域ネットワークの強化、バス交通の維持、交通空白地の移動手段確保など、地域特性に応じた階層的な公共交通ネットワークの形成・維持に向けて取り組んでいる。現行の交通ビジョンを令和5年度に見直すべく、検討を開始したところ。今後、交通に関する条例の必要性や、公共交通を支える費用負担、分担のあり方等についても議論をしながら、人口減少、超高齢社会においても、またコロナ禍を経験した後も、「誰もが、行きたいときに、行きたいと

ころに移動ができる」公共交通の姿を目指して、取組を進めてまいりたい。

成田 近隣府県の緊急事態宣言下においても、休日になると滋賀県の自然等レジャーを楽しむために多くの方が来られ、湖西地域では、国道161号において、午前中は北向きが、夕刻からは南向きにて、琵琶湖大橋周辺においてなど、慢性的に渋滞が発生し、生活に支障をきたしている状況にある。滋賀国道事務所の公表にあわせ、堅田を中心とした湖西地域の道路整備の状況が示されたが、その見通しについて

土木交通部長 真野 IC 口交差点から琵琶湖大橋交差点までの4車線化の区間について、県道路公社において、琵琶湖大橋有料道路第6期事業として4車線化を実施しているところ。真野川に架かる橋梁の架替工事など、鋭意工事を推進しており、令和6年内の供用を予定。国道161号湖西道路真野・坂本北間については、現在、国において4車線化の工事が進められており、開通予定は、令和7年の秋と公表されている。



国道161号湖西道路 大正寺川橋の橋桁架設完了



小松トンネル（仮称）6月16日貫通



小松幅大津側（2.4km）令和7年度秋までに開通予定